



下野小 学校だより

セコイア通信

平成30年 7月 6日発行(第12号)



1学期も終盤を迎えました



『おこだでませんように』(くすのき しげのり 著・石井 聖岳 イラスト) という絵本があります。私が校長として下野小学校に来させていただく前の年にも、学校だよりで紹介されていますので、ご存知の方もたくさんいらっしゃると思います。1年生に入学して以来、先生からおかあちゃんからも「らんぼう」「いもうとをなした」「しゅくだいをしていない」とおこられてばかりの男の子が、7月7日の七夕の日、学校で短冊にねがいごとを書きます。

ぼくは かんがえた。／いちばんの おねがいを かんがえた。いっしょうけんめい かんがえていると、「はよう かきなさい」と、また おこられた。

ぼくは、しょうがっこうに にゅうがくしてから おしえてもらった ひらがなで、いちばんの おねがいを かいた。ひらがな ひとつずつ、こころを こめて かいた。

おこだでませんように

かきおわったのは、いつものように ぼくが さいごだった。／(あーあ、また おこられる)／そう おもいながら、ぼくは せんせいに たんざくを わたした。／せんせいは じっと たんざくを みた。／せんせいは ずっと ぼくの おねがいを みていた。

せんせいが ないていた。／「せんせい…、おこってばかりやったんやね。…ごめんね。／よう かけたねえ。ほんまに ええ おねがいやねえ」

せんせいが ほめてくれた!!／ぼくは おどろいた。／さっそく ねがいが かなったからや。

そのひの よる、せんせいから でんわが あった。／おかあちゃんは、せんせいと ながいことは なしをしていた。／でんわが おわると おかあちゃんが、いつも いもうとに するみたいに ぼくを だっこしてくれた。／「ごめんね、おかあちゃんも おこってばかりやったね」そう いいながら、おかあちゃんは ぎゅうっと だきしめてくれた。

いもうとが うらやましがるので、ぼくが いもうとを だっこしてやった。／「ふたりとも おかあちゃんの たからものやで」そういうと、おかあちゃんは ぼくと いもうとを いつまでも だっこしてしてくれた。

たなばたさま ありがとう。／ほんまに ありがとう。／きょう、ぼくは ものすごく しあわせです。おれいに ぼく もっと もっと ええこに なります。

初めて読んだとき、不覚にも涙がこぼれてしまいました。

今年度がスタートして、早3カ月が過ぎました。下野小学校の子達は、どの子も、友達のことや家族のこと、勉強のこと等、様々なことで悩んだり考えたりしながら、その子なりに確実に成長してきました。学期末を迎え、先生達はテストやノート、作品や授業中の様子等を元に、そんな一人ひとりの子どもの良い所を『あゆみ』に記そうと、遅くまで頑張ってくれています。17日(火)・18日(水)は、「あゆみ渡し」でお世話になります。是非、1学期のお子さんの頑張りをほめてあげてください。

明日は七夕、晴れるといいなあ。

「**道徳科**」がスタートしました

私が以前1年生を担当していた時のことです。『にんげん』という人権教育の副読本の1年生版に載っていた『ぼくらの ゆみちゃん』という教材を使って道徳の授業を行ったことがありました。

ぼくらの ゆみちゃん

えんそくの日がちかづきました。「ゆみちゃん、どうするの。」はなしあいのはじまりました。／「せんせいがもったらええねん。」「……………」「そんな、おかしいわ。」みんなだまってかんがえました。／「そうや。ゆみちゃんうれしないわ。」「ぼくらで、もとうや。」「ぼくらのゆみちゃんやもん。」／グループをつくってれんしゅうしました。学校のかいだんをつかってれんしゅうしました。そとのりっきょうもつかってれんしゅうしました。／えんそくの日です。／ちかてつのかいだんはながいです。「よいしょ よいしょ。」「よいしょ よいしょ。」／てつだってくれる人もいました。「おっちゃん、ありがとう。」みんなでいいました。／山につきました。くるまいすにロープをつけてひっぱりました。／みんなあせびっしょりです。まさおくんはくるまいすをひっぱっています。「ゆみちゃんだけ、ええなあ。」／よしおくんはうしろでおしています。「ゆみちゃんかて、しんどいねんで。」／まさおくんがふりかえっていきました。「うん、そやな。」／またみんなで「わっせ わっせ。」とちょうじょうをめざしてのぼりました。

まず、子ども達に“えんそくの日がちかづきました。「ゆみちゃん、どうするの。」はなしあいのはじまりました。”という部分だけを提示し、ゆみちゃんが車椅子を使っている子であること、電車、徒歩で山へ行くことなどの状況説明をした後、「ゆみちゃんが1A(その時のクラスです)の子だったら、みんなはどうしますか？」と問いかけました。みんな一生懸命考え、発表し合いました。



次の道徳の時間、教材文の残りを子ども達に見せました。すると、一人の男の子が声を上げて泣き始めたのです。私も、周りもびっくりです。理由を尋ねると、「前の道徳の時間、自分は、ゆみちゃんは先生かお家の人の自動車で連れて行ってもらうのがいいと発表しただけ、それじゃあゆみちゃんがうれしくないんだと気がつきました。ぼくは、ゆみちゃんの気持ちを考えていませんでした。」と言うのです。その子は前の道徳の時間、安全面などを考えて「自動車で連れて行ってもらうのがいい」と発言したわけで、決してゆみちゃんのことをのけものにしていただけではないのですが、彼なりに“本当のなかま”というようなことを考えたのだと思います。「自分ならどうするだろう？」と真剣に考えた結果の彼の涙のおかげで、周りの子ども達もそれぞれ自分の考え方を振り返ることができました。

学習指導要領の一部改正により、今年度から「道徳」が教科化されました。「小・中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」では、道徳教育において、「よりよく生きるために道徳的価値に向き合い、いかに生きるべきかを自ら考え続ける姿勢」を育成することが求められています。そして、道徳科では、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、「道徳的諸価値について理解する」「自己を見つめる」「物事を多面的・多角的に考える」「自己の生き方について考えを深める」という4点を授業の中で、子どもが常に自己の生き方を見つめながら、みんなで多様な視点から話し合い、語り合うことを通して自己のよりよい生き方を考えていくことを重視した「考え、議論する道徳」としていくことが求められています。

本校においても「同じ場面に出会ったら、自分ならどう行動するだろうか。」「なぜ、そのように行動するのか。」「よりよい解決方法には、どのようなものが考えられるだろうか。」といったことを考えることを通して、道徳的な問題を多角的に考え、子ども達一人ひとりが生きるうえで出会うであろうさまざまな問題や課題に対して、主体的に取り組む学習を進めていきたいと考えています。